発掘調査の概要

藤原京跡左京三条三坊の調査（飛鳥藤原第178-7次）

奈良文化財研究所では、2011年度から橿原市法花寺町地内の水路改修にともなう調査を実施しています。工事予定地は東二坊大路の推定地に重なっています。

今年度の改修予定地は全長南北約100mです。コンクリート製水路の設置予定ラインを中心として、東西それぞれ1.5mの広さで調査区を設定しました。調査では、現水路の両岸を掘削し、壁面で土層を観察しつつ、遺構面の検出に努めましたが、当初の調査区内では遺構がほとんど削られていました。そこで、西に5カ所、東に2カ所の計7カ所の拡張区を設けたことにより、東二坊大路とその東側溝を平面的に確認することができました。

条坊側溝内からは、飛鳥時代後半の土師器杯（つき）・高（たか）杯（つき）・甕（かめ）、須恵器杯・高杯・鉢・甕のほか、転用硯が出土しています。また、複弁蓮華文軒丸瓦・重弧文軒平瓦等、藤原宮の建物に用いられたと考えられる瓦も出土しています。

藤原京は、宮殿域を中心に十条十坊の範囲に設計されたとする説が現在では有力です。碁盤の目のような東西南北の道路は1本の総延長が約5.3㎞にもおよぶため、調査は部分部分でおこなうことになります。それぞれの調査での測量データを蓄積していくことで、当時の道路位置を推定することができます。今回の調査で確認できた東二坊大路の遺構は一部分でしかありませんが、この成果は藤原京の道路の位置や設計精度を知る上で手がかりとなるものなのです。　　（都城発掘調査部　南部 裕樹）

調査区全景（北から）